

ほぼ、これが江戸時代であるか。

裾野市史 第3巻



境界争いの絵図（富士郡六七カ村と境論裁許状絵図）

第2表 裾野市域の村々の石高（単位 石）					
村名	正保郷帳	元禄郷帳	天明高帳	天保郷帳	旧高旧領
須山	85.454	1.209		174.603	174.603
下和田	80.815	85.454		99.582	99.582
金里	83.989	83.988		100.284	100.285
岩沢	61.319	109.497	109.497	111.436	110.976
深波	75.613	75.613	139.202	141.017	141.017
久根	930.59	1498.259	1473.159	1498.259	1498.259
公文	318.397	425.025	425.025	425.025	425.025
稲荷新田	214.71	281.72	337.022	357.006	355.786
茶畑	17.3	36.838	142.319	144.946	144.239
平松新田	460.36	623.4	757.603	764.84	764.840
麦塚	69.396	69.396	197.677	198.18	198.180
伊豆島田	162.213	188.848	213.116	215.483	215.483
二ツ屋新田	217.083	272.45	307.680	309.705	309.705
水窪	24.817	6.5	50.91	50.91	50.91
佐野	164.904	165.824	184.633	185.703	185.703
石脇	299.75	442.35	563.252	573.801	573.801
御宿	109.506	133.908	157.219	159.57	159.570
千福	250.935	386.45	386.45	386.45	392.453
定輪寺	307.112	457.903	444.653	458.955	456.815
富沢	5.	27.044	22.044	27.044	27.044
葛山	138.595	181.231	180.831	182.299	182.299
上ヶ田	296.296	434.317	421.044	435.836	432.703
大畑	111.385	158.066	158.617	157.677	157.677
	46.02	46.033			46.756

※正保郷帳は正保4年(1647)、元禄郷帳は元禄10年(1695)、天明高帳は天明5年(1785)、天保郷帳は天保5年(1834)、旧高旧領取調帳は明治42年(1909)のものである。

第一章 近世裾野の成立

第二章 村々の概況

第三章 村々の支配

第四章 村の政治と経済

第五章 村の生活と文化

第六章 家と家族

第七章 幕末維新の裾野

価格：6,000 円

販売・お問い合わせ

生涯学習センター（市生涯学習課）

住所：深良 435 番地

三 寛文七年一〇月 石脇村年貢割付状
 〔寛文七年分〕
 石脇村定免御物成可納一年分書出之事
 一 米六拾石式斗
 一 永五貫六百六拾四文
 右之通当年末迄五年定免被仰付候間、毎年霜月廿日以前皆済可仕者也
 寛文七年末十月日
 三 寛文九年一二月二日 富士郡六七カ村と須山村の境論裁許状

地域の多様性を感じる石高一覧

楽しい郷土史だより 第3号

平成28年9月 裾野市教育委員会生涯学習課

裾野市史の編さん事業は、昭和62年から始まりました。平成3年、「資料編 深良用水」から発行が始まり、最終巻である「通史編Ⅱ」が発行されたのが平成13年のことです。このように、長い年月と多くの方々のご協力により編さんされた裾野市史は、私たちに、裾野市の成り立ちや昔の人々の生活を教えてくださいます。

最終巻の発行から15年たった今、改めて裾野市史を例にとり、私たちの郷土史を紹介します。

江戸時代。村に生きた、人々の生活の歴史

市史第3巻 資料編 近世

本書では、近世とは天正18年(1590)から明治4年(1871)、一般に“江戸時代”として親しまれている期間を取り扱っています。

人々の生活を彷彿とする、村の論争や規約、年貢等の負担、大豆や草履などの流通価格。

また、庚申年の富士山須山口登山道の隆盛に象徴される人々の信仰、混沌の幕末維新に接した村の動向など、様々な切り口から当時の実情に迫る、マニアックな1冊。

時代劇では知ることのできない、本物の江戸時代がここにある！

第3章 村々の支配

三 元禄二年正月二九日 生類憐みの令茶畑村請書
 〔六八九〕
 生類憐之儀ニ付申渡口上之覚
 一 従 公儀度々被仰出候牛馬・犬・猫惣而生類憐之儀ニ付、弥以無懈怠堅相守、少茂麓末成義無之様ニ可仕事
 一 牛馬煩候ハ、無油断馬医ニ見せ、薬用随分養生仕、養生不相叶落候ハ、名主・組頭立合相改、死切候ニ相究候ハ、名主所ヘ馬主・馬医ニ証文取、控帳仕置代官立可致注進候、尤煩候内飼料念を入喰可申候、若飼料所持不仕百姓有之ハ家内遂吟味是又代官ヘ可申出之、飼料此方ノ可遣事
 一人ニより飼料所持不仕不力者牛馬・犬・猫其外生類永相煩候か又ハ衰候而用ニ不立候得ハ、人目を忍ひ生ながら捨候者於有之ニハ、重科ニ被仰付候間、縦何様之長煩仕用ニ不立候共、飼料此方ノ取せ候上ハ、持主少茂苦勞ニ不成事ニ候間、此旨能々可令承知事
 一 村々百姓共持主牛馬仕替候ハ、先々々証文とり長付歳

↑元禄2年(1689)1月29日

生類憐みの令。小田原藩領茶畑村に出されたもの。

↑“稀代の悪法”と名高い、生類憐みの令。5代將軍綱吉の時代にたびたび発せられました。

毎月1度、名主の所に村人を集めて読み聞かせよ、としています。

生類愛護精神を養うものですが、例えば“火事に際し、家財道具の搬出などに構いなく牛馬の救出を優先させよ”とあるなど厳しいもので、実際に江戸では多くの人々がこの法令違反で罰せられたようです。

三 天保七年正月一〇日 千福村横山文左衛門伊勢大々講道中日記
 〔八三六〕
 天保七年
 伊勢大々講道中日記
 申正月十日立
 同 一五十六文 藤川宿中喰
 同 一三七七拾式文 うちかへ巻筋
 同 一六七拾式文 岡崎宿ニて紀伊国屋
 同 一五拾文 知竜問屋嘉七
 同 一三十三式文 みやニて昼休
 同 一四十四文 うでぬき
 同 一四十四文 名古屋ニて桑名屋泊り
 同 一四十四文 同所ニて酒もり
 同 一七拾四文 つしまニて昼喰
 同 一七拾四文 津嶋御礼
 同 一四十九文 さや船ちん礼金共
 同 一六十八文 追分かぎや休
 同 一六十八文 上野ニて泊り
 同 一六十八文 万や源四郎
 同 一六十八文 松坂屋休
 同 一六十八文 そうり
 同 一六十八文 新茶屋泊り

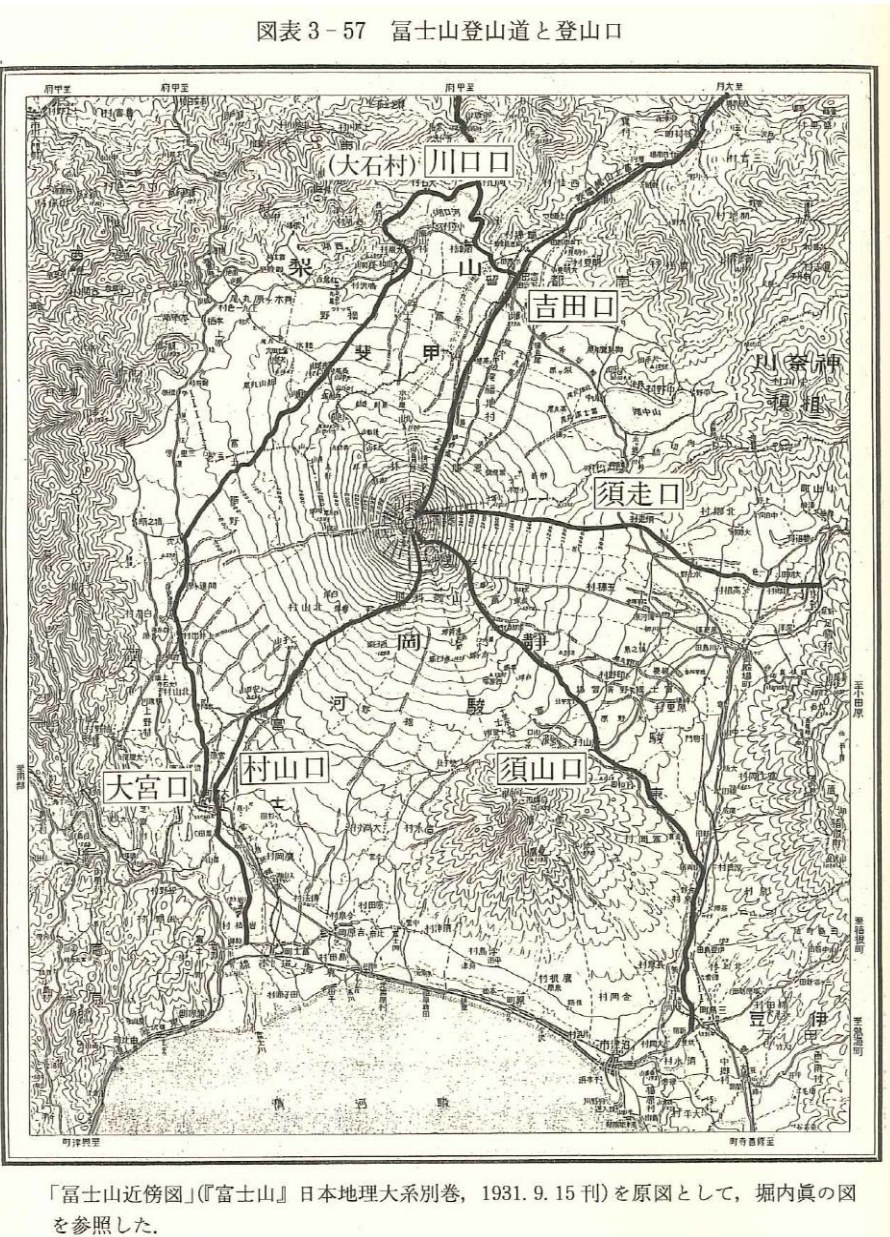
↑天保7年(1836)1月10日 千福村横山文左衛門伊勢大々講道中日記

当時のお伊勢参りの記録(名物、食事など)。普段、駿東郡から出ることのない人々にとって、特別な楽しみだったようです。

江戸時代の富士登山、江戸時代の須山口

「天下に冠たる富士山南口、須山口登山道」

須山口登山道の歴史は古く、室町時代の紀行文『廻国雑記』の中で、文明 18 年（1489）頃「すはま口」を訪れて歌を詠んでいることから、その頃には富士山の登山口として知られていたことがわかります。



富士登山は、初めは修験者など山岳宗教の修行者が主であったと思われますが、やがて江戸時代になると“富士講”として一般庶民に広がり、先達の引率による集団での登山が行われるようになりました。須山口も、信仰登山者を受け入れるための登山基地として、須山浅間神社と 12 軒の御師を中心に様々な機能が充実していったと考えられます。

こうした発展の中で起きたのが、宝永 4 年（1707）の噴火です。裾野市から富士山を眺めると中央に見える噴火口、この宝永火口の大きさから、噴火の激しさを伺い知ることができます。須走村では、火山灰で村自体が埋まってしまうほどであったといえます。須山村も大きな被害を受けましたが、特に深刻なのは、須山口登山道の途中に火口が出現し、降灰などの被害も重なって登山道が通行不能となってしまったことです。

その後、須山村の人々の努力により、宝永火口を東に避ける新たな登山道が整備され、須山口が復興します。左の地図の、須山口から富士山頂に至るルートがほぼ宝永噴火後の登山道にあたります。

コラム ～富士山の入山料～

富士山では平成 25 年から、富士山保全協力金として 1 人 1,000 円を任意で集め、環境保全や登山者の安全対策などの資金としています。

実は、江戸時代にも入山料がありました。一合目にある山役所で 1 人 60 文（現在の貨幣価値でおよそ 2,000 円）を支払い、そこで山切手（領収書）が発行され、山頂の嶽役所にそれを提出します。古文書によると、60 文のうち 20 文が浅間大社に納められ、残り 40 文は須山村の分として、登山道整備などに充てられたようです。



「江戸と平成 登山者数の比較」

下の表を見ると、須山口が、駿河国側の主要な登山口として利用されていたことがわかります。一方、今では車社会の中で、車で行ける上限が新五合目登山口になっています。

江戸時代の登山者数（人）		現代の登山者数（人）			
登山口	（参考）	登山口	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
吉田	8,000 前後	吉田	179,720	170,947	136,587
須走	700～800	須走	36,508	33,092	24,005
須山	1,400～1,500	御殿場	17,709	16,963	15,713
大宮・村山	1,000 前後	富士宮	76,784	64,492	57,921
計	11,200 前後	計	310,721	285,494	234,217

（江戸時代の登山者数は推定値 富士山本宮浅間大社 昭和 3 年発行「富士の歴史」より）

コラム ～庚申の御縁年～

富士山はいつ誕生したのでしょうか？
数十万年前から火山活動がはじまり、約 1 万年前に現在のような姿になったと言われています。

一方その昔には、紀元前 300 年の孝安天皇の庚申（十千十二支の、かのえさる）年に富士山が出現したという申し伝えがあり、庚申縁年の思想が生まれました。60 年に 1 度めぐってくる庚申の年は富士山の御縁年として、元文 5 年（1740）の庚申年くらいから、富士講の広まりに伴い登山者が増え始めたようです。

庚申の御縁年には、普段は必要とされる精進潔斎（体を清める緒作法）が免除され、女人登山も途中（須山口では二合目の幕岩）まで認められるなど特典があり、各登山口で商業的な客引き合戦が行われていたようです。

庚申御縁年に建てられた、須山口の案内看板レプリカ（富士山資料館で展示）↑



「須山口登山道 興味深い盛衰のストーリー 続きは富士山資料館で…。」

世界遺産富士山には長い長い歴史があり、私たちのまちもその歴史に深く関わっています。須山口登山道にも興味深いストーリーがありますが、この紙面ではすべてご紹介できないのが残念です。

なお富士山資料館では、富士山の成り立ちや信仰、文化など様々な視点から富士山を知ることができます。特別展や企画展、講座も開催していますので（市 HP に年間事業掲載）、ぜひ足を運んでみてください。

次号の『楽しい郷土史だより』は、市史第 8 巻 通史編 Iの中から、交通路の発達について特集する予定です。

編集・発行 裾野市生涯学習課 文化スポーツ室 / 深良 435 番地 / TEL055-992-3800

当パンフレット『楽しい郷土史』は、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、市民文化センター、ヘルシーパーク裾野に配架しています。また、市ホームページでも公開しています。